

巻頭言～檜原正澄先生のご退職を記念して

2021年3月末、檜原正澄先生が退職を迎えられます。長きにわたる関西大学経済学部へのご貢献に厚く御礼申し上げるとともに、ご退職にお祝い申し上げます。

檜原先生は、1992年4月、関西大学経済学部に出教授として赴任されました。世はバブル経済崩壊後で、経済学の有効性や重要性がいっそう求められた時代でもありました。そのような状況下で、先生は農業経済学の講義とゼミナールの運営を開始されました。今では、赴任時から30年近くが過ぎようとしています。その間、熱心な教育活動のみならず、学部や大学の業務に携わってこられました。本当に、長きにわたる多大な経済学部へのご貢献であったと、重ねて感謝申し上げます次第です。

先生の農業経済学研究は、ご著書『都市の成長と農産物流通』（1993年、ミネルヴァ書房）に結実されます。先生の問題意識は、「農産物のうちでも都市消費者に深い関わりをもつ生鮮農産物としての青果物を主要課題として取り上げ、農産物流通を都市需要の集積と関連づけて考察する」（1頁）ところにあり、本書における緻密な論理展開と分析は、先生のご研究の真骨頂でした。学会活動においても、日本農業経済学会等いくつかの学会の理事を歴任されましたが、農産物流通研究を中心とされていた先生は、日本流通学会会長を務められ、学会の運営はもちろん、多様な研究をリードされました。学会運営では、学部や大学の業務と同様に、非常に緻密で堅実な手腕を発揮され、学会の発展につくされました。

先生はゼミナール運営にも注力され、「都市消費者に深い関わりをもつ生鮮農産物としての青果物」の研究をゼミ生にも勧められ、また飛鳥での棚田耕作等の実践活動は「檜原ゼミ」の魅力でもありました。学生に対して、常に優しく包容力をもって教育される先生は、講義、ゼミナールともに多くの学生の支持を集めていました。

近年の先生は、「食と農業」という講義科目を担当されています。そこでは、農業を中心とした食料生産・流通の重要性について、食糧自給や食の安全・安心、自然環境の保全、食品偽装問題等多面的な内容で講義されました。そして、講義では中山間地域問題や農村の活性化にも言及され、SDGsを追求する本学にとっても、本講義は重要な役割を担っていました。

先生にとっての講義最終年度は、コロナ禍でオンラインでの授業対応も余儀なくされましたが、先生は変わらぬ熱心な教育実践を貫かれました。先生のますますのご多幸とご健康をお祈り申し上げます。

2021年3月
編者を代表して
佐々木 保幸